

令和4年度(2022年度)

学 校 評 価

笑顔・やさしさ・やる気がいっぱい
夢に向かう葛小っ子

- I 学校評価計画
- II 学校自己評価
- III 学校関係者評価

※ 参考資料

・保護者対象

水俣市立葛渡小学校

〒867-0173

熊本県水俣市葛渡270番地2

TEL 0966-67-1003

FAX 0966-67-1066

E-mail ms07@athena.ocn.ne.jp

I 学校評価計画

1 学校評価の目的

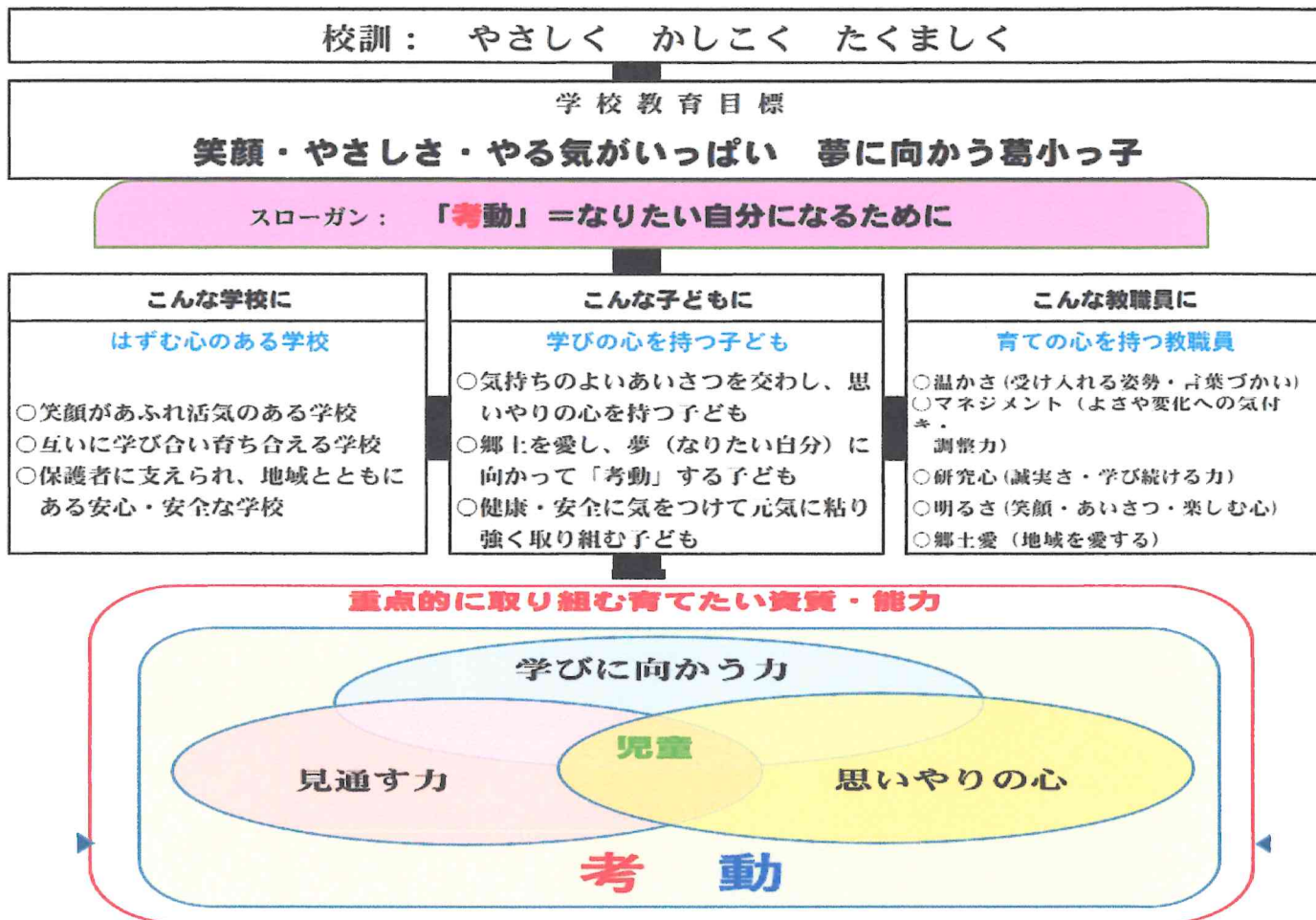
- 自らの教育活動その他の学校運営について、組織的・継続的な改善を図る。
- 学校評価の実施・結果の公表により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、その連携協力による学校づくりを進める。
- 学校評価の結果に応じて、支援や条件整備等の改善措置を講じることにより、教育水準の保証・向上を図る。

2 学校評価のための年間計画

- 4月 学校教育目標にもとづき、具体的実践事項を作成する。
具体的実践事項をもとに担任が学級経営の具体的方策をたてる。
- 5月 ~~第1回学校関係者評価委員会を実施し、本年度の学校経営概要、取組の重点、具体的実践事項を説明する。【コロナ禍のため中止】~~
- 7月 児童による評価及び自己評価（1学期）を行う。
- 8月 1学期の結果を集計し、考察を行う。改善策を策定し、それを達成するための改善方策をたてる。
- 9月～12月 改善方策に基づき実践する。
- 12月 具体的実践事項について、生徒・教員へアンケートを実施する。
児童による評価及び自己評価（2学期）を行う。
評価結果を集計し、考察をする。それにもとづき改善方策を策定する。
- 1月～3月 改善方策にもとづき実践をする。
- 2月 児童による評価及び自己評価（3学期）を行う。保護者によるアンケートを実施する
~~第2回学校関係者評価委員会を開催し、自己評価の結果について話し合いを行い、次年度の学校経営の具体的実践事項の案を策定する。【コロナ禍のため中止】~~
- 3月 評価結果の公表・報告（教育委員会への報告）をする。

II 学校自己評価

1 学校教育目標及び学校経営方針



2 経営の柱と重点努力事項

柱	重点努力事項
豊かな心の育成	心に響く道徳の授業づくり
	つながりのある学級づくり
	生徒指導の充実
確かな学力の育成	学習意欲の向上
	管内統一事項に沿った自校版による授業づくり
	家庭学習の充実
	読書活動の充実
健やかな体の育成	教科体育の充実
	健康教育の推進
	安全・防災教育の充実
	食に関する指導の充実

柱	重点努力事項
特別支援教育の充実	
人権教育の推進	人権課題の解決
	全ての人の人権を守る実践行動
地域とともにある学校づくり	地域との連携協働によるよりよい教育の充実
	地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程
	保護者との強い信頼関係づくり
不祥事防止・働き方改革の推進	

本年度の自己評価

【豊かな心の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察 (成果●課題及び改善策)
		児童	教員		
心に響く道徳の授業づくり	<上段>重点目標(親切・思いやり、善悪の判断、生命の尊さ)の設定による道徳的実践力の育成 <下段>豊かな道徳性を養う道徳の授業の充実 (熊本県の心、つなぐ～熊本の明日へ～等の活用) ①道徳の時間で学んだことを自分の生活の中で実感できた児童の割合 90% ②誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立てる指導をしている教員の割合 100% ③学習シート等を活用し、学習の足跡を残す教員の割合 100%	① 90.0 %	② 100 %	B	○年度当初から、全学級で「道徳の足跡」コーナーを掲示し、学習した項目についてふり返ったり実生活に生かしたりできるようにした。 ○心のアンケートにおいて「いじめられたことがある」と回答した子どもが3名いたものの、担任や養護教諭による聞き取りや教育相談等で早期発見、解消に向かった。 ●昨析児童同士の日常の会話の中にひやかしたりからかったりする言動が見られたことがあった。相手を思いやる心の醸成を継続していく。
		③ 100 %	③ 100 %	A	
つながりのある学級づくり	<上段>話し合い活動に基づいた実践活動の実施 ④みんなと協力して仲良く生活できた児童の割合 95% <下段>全ての人を大切にする学級経営 ⑤子ども同士をつなぎ、一人一人の居場所づくりを行っている教員の割合 100%	④ 93.3 %	⑤ 100 %	B	○複式学級、少人数での話し合いの活性化に向けて、学習リーダーの育成を進めたことで、自分たちで話し合い活動を進めるようになってきた。 ○つながりのある学級や学校を目指して、「もやいタイム(児童を見つめる会)」の実施により、全職員での共通理解や共通実践を図ることができた。 ●みんなと協力して仲よく生活できた児童の割合は目標値に届かずに届かなかった。個人分析や教育相談によって課題を明らかにしていく。
				B	
生徒指導の充実	○自己肯定感を高める声かけや活動の実施 ⑥「夢」(なりたい自分)に向かって行動できた児童の割合 95% ⑦学校生活は楽しいと感じている児童の割合 95% ⑧あいさつを進んで行い、学校のきまりがきちんと守れた児童の割合 95% ⑨児童の「夢」(なりたい自分)を把握し、行動させている教員の割合 100% ⑩生徒指導の3機能(自己存在感・自己決定・共感的人間関係)を意識して、児童の自己指導能力を高めている教員の割合 100%	⑥ 86.7 %	⑨ 87.5 %	B	○あいさつを進んで行い学校のきまりをきちんと守れている児童がほとんどである。積極的なあいさつやきまりの遵守によって、明るく落ち着いた学校生活をおくり、自分自身を伸ばすことにつながることが指導し続けた。 ○ほとんどの児童が学校生活は楽しいと感じている。「楽しくない」と感じている児童については、チーム葛渡のよさを生かして一人一人の背景や課題を把握したうえで対応していく。 ●「夢」(なりたい自分)に向けて行動できた児童の割合や行動させた割合は目標値に届かなかった。原因として「考動」するレベルが深まったものと考えるが、児童の目標設定や振り返りを担任の細やかな指導のもと行っていくなど、次年度に向けた改善を行う必要がある。
		⑦ 96.7 %	⑩ 100 %		
		⑧ 96.7 %			

【確かな学力の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価	評価	評価結果の考察（○成果●課題及び改善策）
学習意欲の向上 管内統一事項に沿った葛渡小坂授業づくり	＜上段＞熊本県学力調査の県平均定着率を超えた割合 75% ＜下段＞芦北管内統一事項(授業づくり)の自校化による授業づくり 【主体的な学びと学び合いにつながる授業改善】 ①友だちと教え合うことができる児童の割合 90% ②話し合いをするとき、自分の意見を発言できる児童の割合 85% ③話し合いを通じて自分の考えを深めることができる児童の割合 90% ④課題を課題のままにしない指導の充実に取り組んでいる教員の割合 100% ⑤学び合いを深める発問やまとめ・振り返りの工夫を行っている教員の割合 100%	82.4%	A	○県学力・学習状況調査の結果、県平均平均正答率との比較においては、□年:国語[+18.7]算数[18.4]、□年:国語[-2.2]算数[+8.9]、□年:国語[+7.3]算数[+10.0]、□年:国語[+12.6]算数[+9.3]であった。僅かに及ばなかった□年国語においても標準スコアの終年比較では向上していた。課題克服のプリントや苦手領域・観点の復習等の取組の成果とみている。全職員で小問分析を行い取りこぼしの領域・観点について総復習を行っていく。 ○「自分の考えを進んで発表できる児童」及び「話をきちんと聞くことのできる児童」については、5月の実態調査より11.7ポイントの上昇が見られ、「学び合い」を深める発問やまとめ、振り返りの工夫を行っている教員の割合も100%であった。 ●互いに発表し合い聴き合う関係づくりの徹底、学習問題の基礎・基本的なケアレスミスが多い児童に対しての基礎学力の定着については、取組を強化していく必要がある。
		児童① 90.0%	B	
		児童② 86.7%		
		児童③ 93.3%		
		教員④ 100.0%		
家庭学習の充実	＜上段＞家庭学習習慣の定着 ⑥家庭学習を進んで頑張る児童の割合 95% ＜下段＞指導と評価の一体化 ⑦「家庭学習の手引き」や「POINT5」を生かし、内容の方法の指導助言、評価を行っている教員の割合 100%	教員⑤ 100.0%	B	○学年に応じた「家庭学習の手引き」「家庭学習POINT5」を活かして指導を行い取り組ませたことで、計画的に課題に取り組んだり、授業とのつながりのある内容に工夫したりするようになった。 ●最終的に、5月の実態調査と同じ達成率であった。家庭学習が定着していない児童をみると家庭でのゲームの時間に費やしている児童が多い。より家庭学習の意識を伝え、主体的かつ計画的な家庭学習な指導の工夫を行うとともに、家庭との連携強化が必要である。
		児童⑥ 90.0%	B	
		教員⑦ 100.0%		
読書活動の充実	○本に親しむ児童の育成 ⑧一月に本を2冊以上読む児童の割合 100% ⑨学校図書館の活用等、読書推進に取り組んでいる教員の割合 100%	児童⑧ 90.0% 100.0%	B	○読書活動推進員の本に親しめる環境づくりや、担任による教科内容と関連づけた学校図書館の活用により一月の読書目標10冊を大きく超え平均15冊以上となった。 ●全ての児童が読書に親しみを持てるような働きかけが必要である。

【健やかな体の育成】(太文字は重点項目)

※具体的実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価		評価	評価結果の考察(○成果●課題及び改善策)
教科体育の充実	運動する楽しさを実感し、体力の向上を図る体育指導の充実 ①外で元気に遊んだり、運動を頑張っている児童の割合 95% ②活動の目標を明確にして教科体育やっている教員の割合 100%	児童	教員	A	○教科体育の充実においては、活動の目標を明確にした授業が行われている。 ○新しいジャンピングボードを設置したことで縄跳びの技術が着しく向上した。運動場は常に整備しており児童の運動に親しむ環境を整えることができる。 ●体力向上に向けて、年間を通して授業開始後のランニングを行っている。今後、運動の特性と体力面における課題をつなげた活動を意識して組み合わせるなどの工夫や、外遊びをしたがらない児童の対策が今後の課題である。
		①	②		
健康教育の推進	＜上段＞基本的生活習慣の育成 ＜下段＞課題解消に向けた保健指導の充実 ③早寝、早起きや歯磨きができている児童の割合 95% ④健康診断の課題の解消に向けて指導、啓発を行っている教員の割合 100%	児童	教員	B	○「スマイル運動」等の取組により、3点固定「就寝・学習開始・起床時刻」の推進を行ってきた。取組の中で「認める」「ほめる」場面をつくり、児童の意欲を高められたことは良かった。 ○歯の治療について、保健だよりなどの保護者への啓発により受診率は100%であった。
		③	④	A	
安全・防災教育の充実	＜上段＞安全教育の充実と徹底 ＜下段＞学校内外の事故防止、防犯体制の整備 ⑤安全に注意し、登校・生活ができている児童の割合 95% ⑥危険予測を含めた安全指導を行っている教員の割合 100%	児童	教員	B	○登下校に関する毎日の安全指導及び一斉下校時における全体指導とおして、安全に関する注意喚起を行った。登下校や地区での事故や大きなケガの報告はなかった。 ○市内の新型コロナウイルス感染者の増加に伴い、感染、濃厚接触、風邪症状による出席停止者や欠席者が多くなったものの、消毒や感染対策の徹底により集団感染は見られなかった。
		⑤	⑥	A	
食に関する指導の充実	＜上段＞教科等の指導と給食指導との関連を図る系統的な指導の実施 ＜下段＞給食の時間の指導の徹底 ⑦朝食を、毎日きちんと食べて登校する児童の割合 95% ⑧給食において、適量を時間内に食べられるように指導している教員の割合 100%	児童	教員	B	○朝食は、ほとんどの児童が摂取できてきている。家庭との連携が重要なところでもあるため、信頼関係を築き、連携を取り合っていくことが大切であるとともに、朝食の内容にもふれ、充実を図りたい。
		⑦	⑧	B	●給食において、時間内に適量を食べられるような指導はできている。コロナ禍により緊急を要する状況下で、今後は楽しく会話をしながら給食を食べられる工夫が今後の課題となる。

【3本柱以外の取組】(太文字は重点項目)

※ 具体的な実践事項の達成度(十分達成:A ほぼ達成:B やや不十分:C 不十分:D)

重点事項	達成に向けた具体的実践事項(指針・指標)	自己評価	評価	評価結果の考察 (○成果●課題及び改善策)
＜特別支援教育の充実＞ ○教育的ニーズに応じたユニバーサルデザインの視点に基づく授業の実現 ⑤ユニバーサルデザインに沿った授業を行う教員の割合 100%	＜人権教育の推進＞ 人権課題の解決及び全ての人の人権を守る実践行動 ○第3次とりまとめや環境学習、水俣病学習の実施と人権教育に関する研修の充実及び啓発等の推進 ①人権教育年間計画に沿って確実に授業を行った教員の割合	教員 ⑤ 100.0%	B	○児童理解のために行う「もやいタイム」は、気になる児童への組織対応において、有効であった。 ●児童が目につく範囲においてユニバーサルデザインに基づいた気を散らさない掲示や視覚的支援の工夫をしていきたい。
		教員 ① 100.0%	A	○校内研修において、果から発行されている人権教育推進のための資料を活用して「同和問題」をはじめ、「水俣病をめぐる人権」「ハンセン病回復者等の人権」「教育実践の交流」を中心に計画的に研修を進めた。そのことで、教職員の資質向上につながり、指導方法の工夫改善につながったと考える。今年度はブロック別授業研究会を本校で実施した。 ●教員の指導のもと、「なりたいたい自分」を児童相互にも意識させながら考動させていくこと、自他を尊重させる意識を持たせていきたい。
＜地域とともにある学校づくり＞ 地域との連携協働によるよりよい教育の充実 ○豊かな体験活動の場の設定と学校応援団の活用 ②地域等との連携(人材等の活用)を図った教員の割合 100% 地域や保護者との連携強化と開かれた教育課程 ○連携を深めるための積極的な情報公開 ③「学校だより」「学級通信」等を定期的に発行できた教員の割合 100% 保護者との強い信頼関係づくり ○傾聴や協働の姿勢 ④保護者からの相談があった際、傾聴と共働を意識しながら話し合いができた教員の割合 100%	＜不祥事防止・働き方改革の推進＞ ○不祥事防止に向けた啓発と申し合わせ事項の遵守 ⑥ポトムアップ型研修の実施や「不祥事防止だより」の発行により、自身の言動を振り返れる教員の割合 100% ○業務の割り振りの適正化 ⑦超過勤務時間、月45時間以内で収める教員の割合 100%	教員 ② 80.0%	B	○新型コロナウイルス感染症対策3年目となり、今年度も地域人材活用については気を配っていたが、協力の要請であったが、できる限り協力をいただきたながら行ってきた。授業参観や学級懇談会も計画通りに行い、緑東中学校区3校合同家庭教育講演会も実施できた。学校に対して協力的な地域であるので、コロナ収束を念頭に地域との新たな協働のあり方を見つけていく必要がある。 ●積極的な情報公開においては、年度途中から、学級だよりを週1回発行から月1回に変更したことで教員による自己評価が低下した。指標設定の見直しが必要である。 ○「学校ホームページ」の公開充実を図った。昨年度の記事の更新回数は19回であったが、今年度は61回(3/1時点)となり、閲覧回数も増加した。 ○保護者との強い信頼関係づくりにおいては、傾聴の姿勢、対話重視で、少人数ならではの利点を生かしてきた。今後、一方通行ではなく、双方向型の対話を図っていく。
		教員 ③ 85.7%		
		教員 ④ 100.0%		
		教員 ⑥ 100.0%	A	○計画的ポトムアップ型研修の実施に併せて、通時管理職が行う研修講話や職員向け「不祥事防止だより」の発行により、学校から不祥事を出さないという意識は高まったものと考えられる。 ○職員連絡会を週1回、学級だよりを月1回発行、定時退勤推進日を週2回としたことで、放課後の時間の使い方を各々が有効に活用するようになり、超過勤務45時間を超えたのは教員だけ(3学期はなし)であった。教員の負担軽減については課題が残る。
		教員 ⑦ 100.0%		

Ⅲ 学校関係者評価

※今年度は未実施
(コロナ禍のため、PTA執行部)

＜学校関係者評価委員＞

役職名等	お名前	役職名等	お名前
PTA会長	木場 隆廣	総務	山内 智哉
副会長	吉海 幸裕	書記・会計	吉海 寿次
副会長	木山 利可		

- (1) 学校関係者評価委員による評価
ア 具体的実践事項の評価結果は適切か。

【学校の自己評価について】 (人)

評価項目	評価基準及び妥当性		
	高すぎる	妥当である	低すぎる
A：豊かな心の育成		5	
B：確かな学力の育成		5	
C：健やかな体の育成		5	
D：3本柱以外の取組		5	

- イ 具体的実践事項からの改善策は適切か。

【今後の課題の改善策について】 (人)

評価項目	評価基準及び妥当性		
	効果的である	おおむね妥当である	期待できない
A：豊かな心の育成	2	3	
B：確かな学力の育成	2	3	
C：健やかな心身の育成	2	3	
D：3本柱以外の取組	1	4	

(2) 学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）による意見等

具体的実践事項	学校関係者評価委員（学校運営協議会委員）による意見等
豊かな 心の育成	□あいさつも以前よりできてきたのかと思いますので、今後も力を入れてもらいたい。 □学習リーダーの育成については、今後、先の中学校生活において、自考力の向上へ、さらに率先する力につながっていくので、今後も取り組んでほしいです。 □複式ならではの下と上とのつながりなど良いところも多いので、しっかり話し合うなどをこれからも続けてほしいです。
確かな 学力の育成	□様々なメディア等に触れる機会が多く、その為か、活字に触れる時間が少なく、読解力が低い点も見られます。この辺のバランスの取り方が大事だと思います。 □読書は良いので、これからも親しんでもらえるように声かけをお願いしたいです。 □学習面に対しては、少人数で、各個人に目がいき届いており、今後も続けていてもらいたいです。
健やかな 心身の育成	□体力低下と言われる昨今ですので、外遊びに対する重点化をお願いします。 □家庭では好き嫌いなどあるので、給食で毎日きちんと食べる習慣をつけられるように工夫してもらいたいです。
3本柱以外の 取組	□児童数が少ない時代なので、日常会話等も多く取り入れながら、保護者との連携をさらに強めて行って欲しいです。 □コロナとの関わりも変わってくると思うので、少しずつ以前のように地域との交流しながら子どもたちを見守っていかたいと思います。

Ⅳ 次年度への指向

(1) 学校関係者評価を受けて

【学校の自己評価について】

A：豊かな心の育成、B：確かな学力の育成、C：健やかな心身の育成、D 3本柱以外の取組において、全員が「妥当である」とのご意見であった。

【今後の課題の改善策について】

・A、B、Cにおいて2名、Dにおいて1名が「効果的である」とのご意見であり、その他のすべての項目において、「おおむね妥当である」とのご意見をいただいた。「期待できない」のご意見は、0名であった。

A：豊かな心の育成について

○挨拶については以前よりもできてきているという意見をいただいたものの、家庭や地域の積極的なあいさつに課題があると思われる。挨拶の励行について工夫していきたい。

○少人数を生かした人間関係の構築やリーダーシップの育成、児童の悩みに対する早期対応や自律心の育成については、これまで以上に全職員で共通理解のうえ、進めていきたい。

○次年度も、生徒指導の3機能を十分生かしつつ指導にあたっていきたい。

B：確かな学力の育成

○本年度も、全国学力・学習状況調査や県学力・学習状況調査の小問分析や課題にあった問題への取組などにより、大きな成果をあげた。次年度は個々の課題をふまえて、学校改革プロジェクト会議で作成された問題等を活用しながら、確かな学力の育成を目指したい。

○学力の向上には、読書に親しむことは重要であるとの認識は家庭も持っている。児童が興味を持って読書を行う習慣づくりとともに、月目標や強化月間の設定等から読書量の向上に努めていきたい。併せて、図書室のより一層の環境整備にあたりたい。

C：健やかな心身の育成

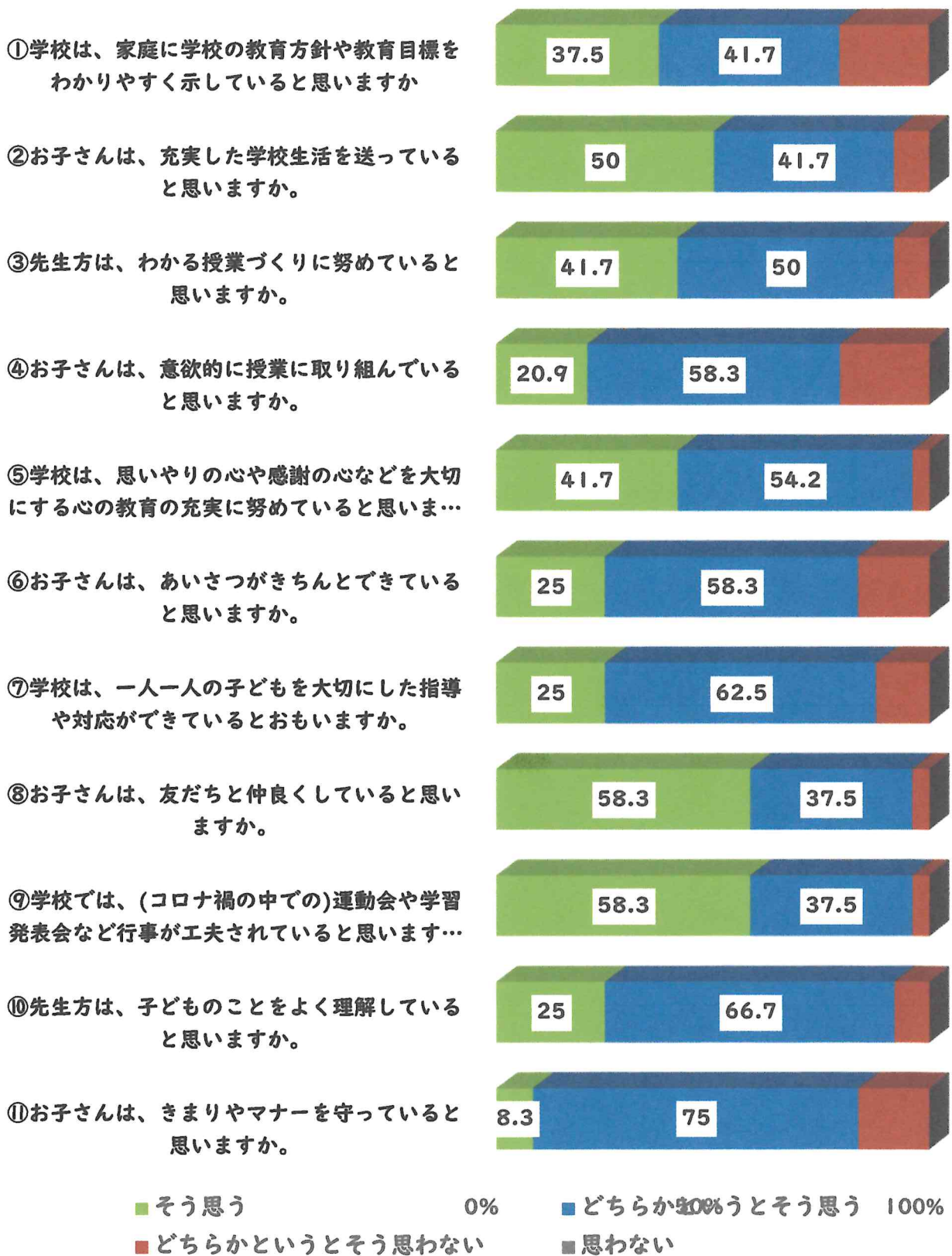
○体力向上に向けて、ジャンピングボードの設置や運動場の整備により外遊びをする児童が増えたものの、外になかなか出ない児童もいる。スポーツテスト結果の課題をふまえた体力向上の取組やさらなる外遊びの励行の工夫を行いたい。

○朝食摂取及び3点固定運動については、家庭との連携が重要であるので、より一層の協力体制を築いていきたい。

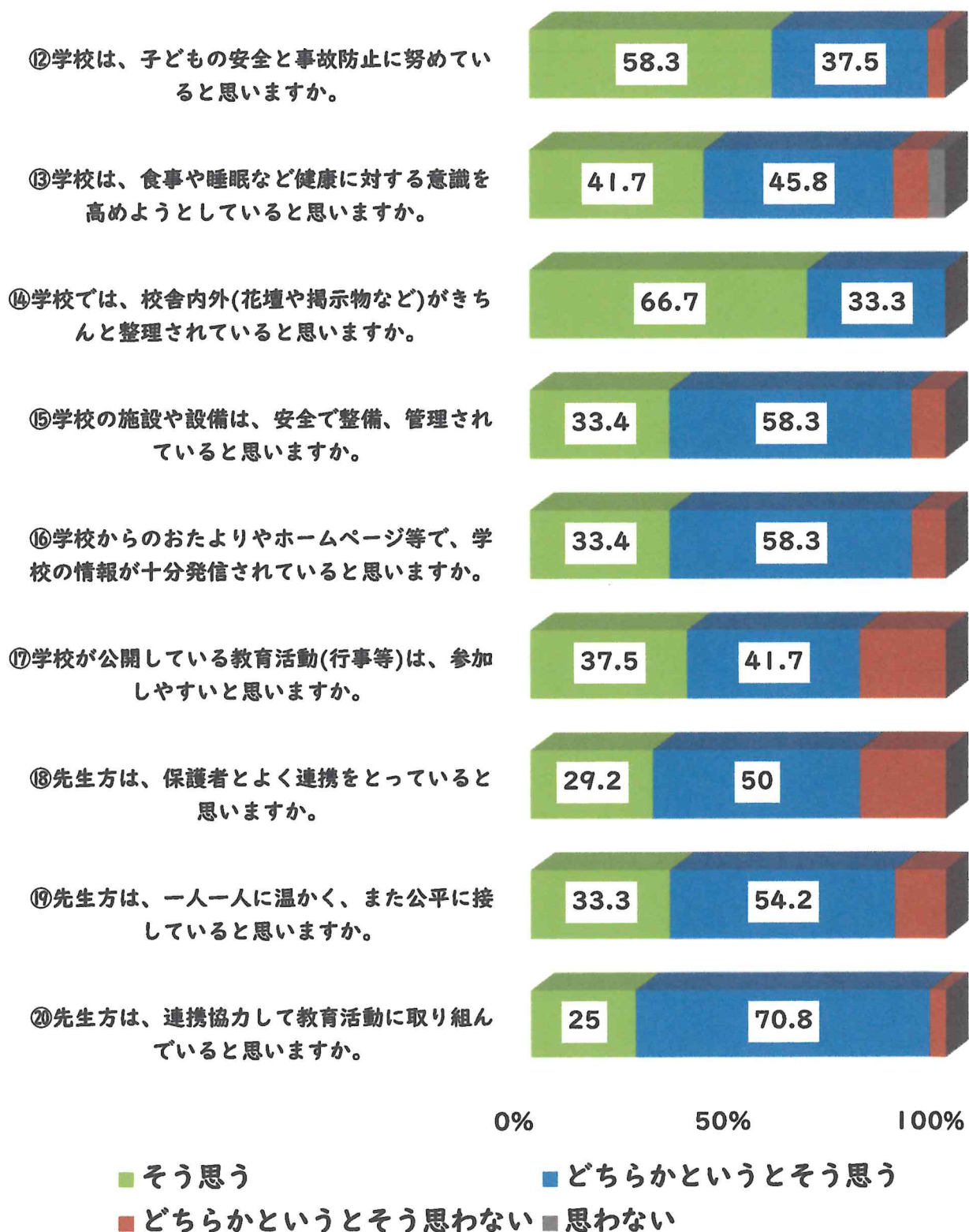
D：3本柱以外の取組

○新型コロナウイルス感染症の感染対策もあり、地域等の人材活用について難しい中であったが、学校に対して協力的な地域であるので、感染状況をふまえて地域との協働活動を行っていきたい。

学校評価アンケート【保護者用】の結果①



学校評価アンケート【保護者用】の結果②



学校評価アンケート【保護者用】の結果③

- ・コロナ禍でまだ色々と規制があると思いますが、子ども達が楽しく学校生活が送れるように私たち保護者も一緒に協力していきたいと思っています。
- ・先生、関係者皆さん頑張って欲しいです。後PTA活動や講演など参加が多いので教師等保護者の負担を減らして欲しいと思っています。みんないろんな役、地域や職場で受け持っているので大変です。よろしくお願い致します。
- ・これからも娘を宜しくお願いします。
- ・まだまだコロナ禍で大変だと思いますが子ども達には色々な経験をさせてもらえたらと思います。